

世界の文学と演劇 (全4回)

世界の文学と演劇の理解を深めるためのレクチャーをシアター・コミュニケーション・ラボ大阪（TCL大阪）との共催で開催いたします。講師には各国の演劇事情に精通する評論家、研究者を迎え両者の関係性を学びます。

日時	3月3日(金)・10日(金) 17日(金)・24日(金) 各日 18:30～20:00
場所	豊中市立文化芸術センター内
受講料	4,000円 ※定員20名。全講座受講できる方対象。

日程・講座内容

第1回 3月3日(金) 中国の文学と演劇～越劇と『紅樓夢』～

講師：中山 文（神戸学院大学教授）

第2回 3月10日(金) ロシアの文学と演劇 ～チェーホフの小説と戯曲の謎に迫る～

講師：堀江新二（大阪大学名誉教授）

第3回 3月17日(金) ドイツの文学と演劇 ～ブレヒトの寓意劇『アルトゥロ・ウイ』～

講師：市川 明（大阪大学名誉教授）

第4回 3月24日(金) 日本の文学と演劇 ～歌舞伎から現代劇へ～

講師：河内厚郎（演劇評論家）

※詳しくは裏面をご覧ください。

応募方法

申込は、参加申込書に必要事項を記入の上
FAX(06-6863-0191)または、同センター窓口。
参加申込書は、同センターホームページからダウンロード
もしくは、同センター窓口にて配布。

申込締切 3月2日(木) 必着

講座概要

第1回 3月3日 (金)



中国の文学と演劇 ～越劇と『紅樓夢』～

講師：中山 文（神戸学院大学教授）

中国には女優だけで演じられる「越劇」という劇種があります。20世紀初頭に浙江省の小さな地方劇として生まれた越劇は、1940年代に上海へ進出し、女性ミュージカルに変貌して人気を集めました。その優美な音楽と華やかな舞台は今も中国全土に多くの熱烈なファンをつかんでいます。今回の授業では越劇の『紅樓夢』を取り上げます。『紅樓夢』は中国四大名著に数えられる清代の長編小説ですが、越劇では封建的家庭に仲を引き裂かれる恋人たちの物語となっています。映像を見ながら、越劇の美しさをご紹介します。

第2回 3月10日 (金)



ロシアの文学と演劇 ～チェーホフの小説と戯曲の謎に迫る～

講師：堀江新二（大阪大学名誉教授）

『かもめ』、『三人姉妹』、『サクラソノ畑』で有名なロシアの劇作家チェーホフは、シェイクスピアに並ぶ世界の二大劇作家だが、もともと短篇小説の名手で、風刺のきいた1～3ページほどの小説をたくさん書いていた。その短篇は実は大変演劇的で、演劇の視点で見直すと、初めて浮かび上がる光景がある。その名人芸に触れながら、上記戯曲の「謎」に迫る。短篇『太っちょとやせっぽ』(1頁の短篇)をレクチャーの場で読みながら、分析します。

第3回 3月17日 (金)



ドイツの文学と演劇 ～ブレヒトの寓意劇『アルトゥロ・ウイ』～

講師：市川 明（大阪大学名誉教授）

ドイツの劇作家ベルトルト・ブレヒトは、1933年2月、ナチスによる悪名高い国会議事堂放火事件の翌日、ベルリンを去りました。それは15年に及ぶ亡命の旅の始まりでした。フィンランドで、ブレヒトはヒトラーをシカゴのギャング団のボス、アルトゥロ・ウイになぞらえた寓意劇を書きあげます。「政治の演劇化」というヒトラーの陶酔的な演出に、ブレヒトは「政治の演劇化」で応えようとしていました。ドイツや日本の上演の映像を見ながら、この作品を分析し、ブレヒトの言う「異化」や「叙事詩的演劇」についても考えます。

第4回 3月24日 (金)



日本の文学と演劇 ～歌舞伎から現代劇へ～

講師：河内厚郎（演劇評論家）

能・狂言、歌舞伎・人形浄瑠璃、新派、新劇、宝塚歌劇・ミュージカル…日本では時代ごとの演劇が共存しながら変化を遂げてきました。シェイクスピア劇の本邦初演は明治18年の大阪でしたが、日本演劇の本格的な近代化は坪内逍遙によって東京で始まります。大正時代には歌舞伎や新派の俳優のために岡本綺堂や真山青果が戯曲を書くようになり、大正末期には現在の新劇のルーツとなる築地小劇場が登場して、昭和に入ると森本薫のような近代的な劇作家が現れました。日本における演劇の変遷を劇作家に焦点をあてて追います。